全校児童と国際交流も

名古屋大大学院　留学生ら清内路小を視察

名古屋大学の大学院で教育学を専攻する学生と留学生5人が1日、阿智村の清内路小学校を視察に訪れた。小規模校の現状を視察したほか、全校児童27人と国際交流を楽しんだ。

発展途上国の教育などを研究テーマにしている中国とペルー、韓国からの留学生と、沖縄県出身の学生が、日本の多様な教育現場を訪問する取り組みの一環。大小さまざまな学校に出向いているが、清内路小だけは2008年から継続訪問している。

各学年の授業見学に続いて開いた交流会では、ペルーの民族衣装やチャイナドレスを着た留学生たちが、自国を象徴する文化財や食べ物、言葉などを題材にしたクイズを出題。英語を使った説明もあり、全校児童と楽しいひとときを過ごした。

子どもたちは写真を見て答えるクイズで、ペルーのマチュピチュやナスカの地上絵、中国の万里の長城、韓国料理のトッポギなどを言い当て、留学生らを感心させていた。

同行した山田宮子教授は「清内路小は教員の県費加配で複式学級化を回避しているが、海外には児童生徒が多く、先生が足りないために複式学級となっている例がある。（清内路小の継続視察は）自国の教育現場が抱える課題を別の角度から検証し、相対化する意味で勉強になる」と話していた。

留学生は将来、出身国や発展途上国で教育関係の仕事に就く予定。

土で育ったイチゴをほお張る

龍江

土から育った甘い味

今田平イチゴ狩りオープン

飯田市龍江の農業法人今田平（大平紘明社長）のイチゴ狩りが1日、オープンした。近隣の親子連れが、甘いイチゴを口いっぱいにほお張っていた。

今田平敷地内の11棟のハウス約3000平方㍍には、大きく甘い「章姫（あきひめ）」と甘酸っぱいイチゴ本来の味が楽しめる「紅ほっぺ」の2品種を栽培している。

今田平のイチゴは土からの栽培が特徴。毎年5月になると、土をおこして平らにし、畝の間は土とビニールをかぶせて地温を上げて殺菌し、連作障害を予防。秋になると肥料を入れて畝（うね）を作る。苗の定植作業にはあくり女学院が体験に訪れ、昨年は10月9日に1万5000株を定植。大平社長によると、ことしは寒い日が続いたものの、日照時間が多く、整ったいいイチゴに育った。

オープン初日の同日には作業体験したあくり女学院のメンバー16人も招待。ハウス内は気温が15度から20度ほどと温かく、赤く色づいたイチゴを見て感激した様子。あくり女学院に参加した佐々木萌江さんは「手間をかけて土づくりをしているイチゴ。食べられるのがとても楽しみにしてきた。今度はまた誰かを連れてきたい」と話す。あくり女学院の女性らはイチゴ狩りだけでなく、ジャム作りも体験した。

大平社長は「ここは体験型農場で農業体験も行っている。土から栄養分を吸って育ったイチゴを多くの方に味わってもらえれば」と話していた。

入園料は5月末まで大人（小学生以上）1500円、小学生未満500円、3歳未満は無料。3月1日から若干安くなる。5月連休明けまで。事前の予約が必要。申し込みなどは、農業法人今田平（電話0265・…、携帯080・5141・0487）へ。

留学生らとクイズで交流する清内路小の児童

千栄小学校

1年の活動成果を披露

音楽と学習発表会

飯田市立千栄小学校（南島洋子校長、31人）は3日、学習発表会を開いた。音楽の部と学習発表の部があり、児童は練習を重ねた合唱や合奏、1年間の総合学習の成果を披露した。

同校は毎年、保護者や地域の人々に活動の成果を披露しようと学習発表会を開催している。第1部の音楽の部では、全校での「マイバラード」の合唱をはじめ、2学年合同で練習してきた歌や楽器演奏も発表。児童たちはステージ上でダンスを踊った。

2部の学習発表では1、2年生が生活の授業で大豆を育てて納豆にしたことをクイズで紹介。3、4年生は「さるかに合戦」の人形劇を上演。千代保育園や千栄小分校などでも上演してきた子どもたち。いじわるなサルに復讐する子ガニたちの姿を面白おかしく演じた。

この日は、5年生がみどりの少年団の活動発表、6年生が本校での劇を上演した。

合戦の人形劇上演も

三穂文化祭

神戸ぼっかけうどんも販売

飯田市三穂地区の文化祭が3日午前9時から、地区公民館と三穂保育園で開かれる。

三穂小学校の児童による器楽合奏やマジック、伊豆木人形クラブの人形浄瑠璃、竜峡中学校吹奏楽部の演奏が一般公開。作品展示、飲食物のテント村、大抽選会など。

三穂と交流を重ねる神戸市長田区真陽地区の住民が、地元名物の「ぼっかけうどん」を午前10時から販売する。

われら同級生

冬本番は NEW FORESTER!
ぶつからない車?

南信スバル株式会社
SUBARU

休日夜間急患診療所
☎23-3636（飯田市東中央通）
◎診療科目　内科・小児科
◎診療時間　午後7時～10時まで（受付は午後10時まで）
◎電話案内　24時間

生徒募集
講者としても経験豊かな講師が指導。
第1、3日曜日 11:00～12:00
飯田創造館 ☎52-0333

定員あり　詳しくはお問い合わせ下さい

中国楽器店 龍胡堂
開店1周年記念セール
2/1金～2/28木
15%OFF　10%OFF

理学療法学科 8期生募集！
●出願期間　第一回 平成25年1月28日月～平成25年2月14日木
第二回 平成25年1月28日月～平成25年2月21日木
●入試日　第一回 平成25年2月16日土 第二回 平成25年2月23日土
●試験会場　飯田市勤労者福祉センター
●試験内容　AO入試（面接試験）
お問い合わせ：地方入試窓口 TEL:0596-24-2540

環境変化で需要減少

飯田市内の水引業者でつくる飯田水引協同組合の加盟社は二十三社。組合によると、バブル期をピークに四社ほど減ったという。業界全体での販売額も、バブル期の年間約八十億から四十億程度に落ち込んでいる。自己破産することになった業者も。売り上げの減速に直面していた。

その背景には、伝統的な水引を取り巻く環境の変化がある。水引は古くから結納や結婚式に欠かせない縁起物として重用されてきたが、挙式の簡素化で需要が減少。さらに中国産の安い水引が市場に出回り、高品質で値段

水引 飛鳥時代に大陸から伝わった贈物が紅白のひもで結ばれていたことから、贈答用の品物に同様のひもを付けたのが起源とされる。古くから和紙作りが盛んだった飯田下伊那地域では、江戸時代から水引の製造が始まり、現在は全国の約70％のシェアを誇る。

飯田市の地場産業として栄えてきた水引の製品＝飯田市中央通の多月堂で

品の開発に挑戦。水引で作ったお守りは京都を中心に約百カ所の神社から注文が相次ぐヒット商品となっている。また、地元の飯田女子短大などで講演し、水引のPR活動も展開。地元産の水引が持つ魅力だけでなく、祝い事での習慣を守る大切さも伝えている。

「新しい取り組みは始まったばかり。すぐに結果に結びつかないかもしれないが、地道な活動が大切。業者自身がもっと勉強して、水引の魅力を発信していきたい」と、田中社長。飯伊地域を象徴する産業の担い手たちは復活を信じて、力強く歩み出している。

「鬼は外、福は内」
園児 元気いっぱい豆まき
飯田

節分の日（三日）を前に、飯田市の飯田仏教保育園で二日、豆まきがあった。

園児は保育士から節分の話を聞いた後、園庭で赤、青、緑の鬼に「鬼は外、福は内」と元気いっぱいで豆を投げつけた。

豆まきは邪気を払い、福を呼び込むいわれがある。豆用の手作りの箱を首から提げた園児は、鬼が現れると大泣きして逃げ回ったが、慣れてくると果敢に挑戦。豆を投げて鬼を追いかける園児もいた。

最後は福の神が現れ、泣いたり走ったりして疲れた園児を、優しく抱きしめてなだめた。園児が喜んで豆をまく様子に、早川英尊園長（[illegible]）は「健やかに成長しますように」と願いを込めていた。（石川才子）

赤鬼に向かって豆を投げる園児ら＝飯田市で

授業やゲーム楽しむ
清内路小 名大学院留学生が交流

名古屋大学大学院の留学生ら五人が一日、阿智村を訪れ、清内路小学校で授業参観をし、全校児童二十七人との交流会などを楽しんだ。

訪れたのは大学院国際開発研究科で学び、いずれも進路として教職や教育関係を目指している女性五人。国籍は中国、韓国、ペルー、日本とさまざま。ペルー人のベロニカさんは、アンデスの民族衣装で登場して、子どもたちを喜ばせた。

交流会では、自己紹介しながらそれぞれの国のクイズを出し合ったり、母国語を使った「福笑い」ゲームをしたりして楽しんだ。

清内路小と同研究科の交流は四年目で、高学年児童は、留学生とすぐに打ち解けていた。留学生たちは、児童たちと共に給食を味わったほか、清内路の地域巡りもした。（須田隆仁）

アンデスの民族衣装で登場したペルーからの留学生ベロニカさん＝阿智村の清内路小学校で

優秀賞に飯田市推進協
キャリア教育 取り組みの成果評価

「第一回キャリア教育推進連携表彰」の優秀賞に飯田市教委や学校、地元企業でつくる市キャリア教育推進協議会が選ばれた。二〇〇九年の設立以来、地域に根ざした地道な活動を続けてきた関係者は「努力が評価された」と喜んでいる。

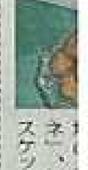
キャリア教育推進連携表彰は、二〇一一年度に文科省と経済産業省が創設。今回は全国の七十八団体から応募があり、最優秀賞、優秀賞、奨励賞など八件が選ばれた。

飯田市キャリア教育推進協議会は、生徒らの職業観を高めるため、職場体験事業を推進。受け入れ先の地元企業を開拓し、学校側とマッチングさせる取り組みに力を入れている。

また「家庭でのキャリア教育」として、子どもたちと家族が一緒に過ごす時間をできるだけ多くするよう呼び掛ける啓発活動を展開。子どもたちにコミュニケーション能力を身に付けてもらおうと、あいさつや会話、家の手伝いなどを大切にするよう指導している。

市教委生涯学習・スポーツ課の松下徹課長は「行政、学校、地域が三位一体となって進めてきた取り組みの成果が少しずつ出始めている。三者が連携した関係を築いて、進めてきたことを評価してもらい、うれしい」と話している。（西川正志）

飯田市内の老人保健施設で職場体験をする中学生＝飯田市教委提供


ネ、チョコチップビスケットの入った「パ

ル＝電0265（91）2200＝へ。

南信この人
天龍峡ご案内人 塩沢 博子さん（64）

冬場の雰囲気楽しんで

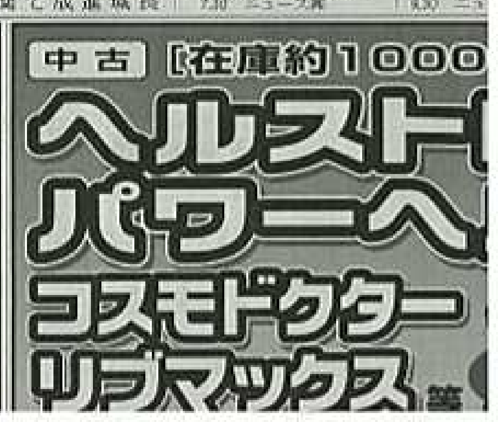
名勝地として知られる飯田市の天龍峡で、観光客のガイドを担当。六人の仲間とともに、奇岩・巨石がそそり立つ渓谷の魅力を紹介している。

「いろいろな人たちと会えるのが楽しい。私はすぐに飯田弁が出てしまうけれど、そこがいいと言ってくれる人もいる」と笑う。

遊歩道の歌碑の前で、観光客と一緒に合唱することも。明るく親しみやすい案内は〝飯田弁〟ならでは。

一時間半ほど遊歩道を巡れば、だれもが天龍峡ファンになる。「冬場は静かでひっそりとした雰囲気が楽しめる。雪が積もると水墨画の世界ですよ」と、しっかりPR。卓球と水泳で鍛えた体力を生かし、今日も天龍峡を歩く。飯田市川路。（中山道雄）

生鮮食品市況

ictv飯田

ABC部数は
読者が見える数字です。